



OKAYAMA Y'S MEN

NO.9





THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

REGION

ワイズメンズクラブ国際協会西日本区



JAPAN WEST



CONTENTS

PAGE 3-5

人を幸せにする胃ろう造設

3月例会の板野さんのお話の要点を
まとめた記事です。

PAGE 6-7

3月例会報告

NSTと院内飢餓のお話をドクター板野
が渾身の力を込めて行ってしてくれまし
た。

PAGE 8-10

YMCAニュース

卒園式、感謝会、同窓会の
報告です。

PAGE 11-12

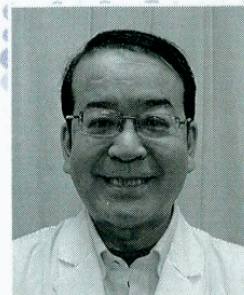
のぶちゃんの聖書のお話

YMCAせとうちの協力牧師である
延藤好英さんのエッセイ。
今回は、2話連続バージョンです。

人を幸せにする胃ろう造設

～胃ろうの倫理的側面と倫理カンファレンス

岡山協立病院 医師 板野 靖雄



1. 胃ろうと栄養障害

1996年から院内で胃ろう造設を行ってきました。また2005年から栄養サポートチーム（以下NST）を立ち上げ活動してきました。そのなかで、患者が抱える厳しい問題に直面しました。摂食・嚥下^{えんげ}障害を抱えた認知症、脳血管障害後遺症、神経難病の患者が何と多く、その彼らにさらなる苦しみを与えている栄養障害という問題でした。

演題の「人を幸せにする胃ろう」とは、適切な時期に、適切な目的を持って造設し、そして胃ろうを適切に使用し、患者に益をもたらす胃ろうのことです。それらの「適切さ」を失うと、胃ろうは患者に不利益をもたらすのです。

2. 院内飢餓 ～「栄養は人権である」～

NSTにかかわって「院内飢餓」という言葉を知りました。当時、日本は「飽食日本」と呼ばれ、「メタボ」が大きな問題でした。しかし病院、施設の中ではこのような高齢者の栄養障害が広がっていたのです。「高齢者をこのような姿で死なせてはならない」。この思いが、NST活動を継続する私の原動力となりました。当院の高橋淳院長がかつて「栄養は人権である」と言いました。そう、栄養の問題は患者の人権の問題なのです。

病院でなぜこのようなことが起きるのか？ それは医師の栄養に対する無関心に大きな原因があります。また病気だから仕方がない、認知症だから仕方がない、本人が食べないから仕方がないと、見て見ぬふりをしてきたわれわれ医療スタッフに問題があります。医療の現場はわれわれ医療従事者の人権意識が問われる場です。それは、われわ

れの「倫理」が日々問われる現場と言い換えられると思います。

3. 胃ろう造設件数の増減 ～胃ろうバッシングの始まり～

1996年から胃ろう造設を始め2021年度末で1518症例となりました。造設件数は99年の82例から徐々に減少し2014年で過去最低の45例となりました。全国的にも胃ろう造設は減り続けました。その後、当院では再び増加し、昨年最多の82例となりました。この増減の意味について考えます。

実は胃ろう造設が減っていくターニングポイントがあるのです。12年2月6日、当時自民党幹事長だった石原伸晃氏の「エイリアン発言」です。「この5年間で何が変わったかって言えば、胃ろうですよ。意識が全くない人に管入れて、生かしている。それが何十人も寝ている部屋を見せてもらったとき、何を思ったかという、エイリアンですよ」。ここには大きな誤りがあります。「胃ろうは意識がない人を生かすもの」という認識です。

普通は、石原氏に対するバッシングが起きるはずですが。しかし驚くべきことに、石原氏ではなく、胃ろうに対してバッシングが始まったのです。週刊誌、医療批判本、マスコミで雪崩を打ったように胃ろうが叩かれたのです。「胃ろうが不幸な年寄りを生んでいる」との論調でした。この後、家族から胃ろう造設の拒否が増加しました。「胃ろうだけは絶対にしません」、「胃ろうをすると廃人になりませんか？」、「胃ろうは人間の尊厳を傷つけませんか？」など、今まで聞いたこともない言葉を家族からぶつけられるようになりました。

4. 厚生労働省は倫理的か

その流れのなかで、14年に胃ろう造設にかかわる診療報酬が改定されます。「胃ろう造設の嚥下機能評価の実施等の推進を図るため」が改定の理由として述べられています。しかし、それならば嚥下評価加算を追加すればよいだけです。しかし胃ろう造設術の点数を引き下げたのです。この改定の目的は胃ろう造設の評価と価値を落とすことだったのです。

さらに15年には要件を満たさない医療機関の胃ろう造設点数を減算しました。その要件とは①全例に嚥下機能検査を実施、②経口摂取回復率35%以上、③全員に対して多職種の前カンファレンスなどの実施です。この改定のもくろみはハードルを上げて胃ろう造設数を削減することです。

この改定の影響を受けて、いくつもの病院が「病院として胃ろう造設を行わない方針」としたため、当院への紹介患者が増えたのです。

会田薫子著『長寿時代の医療ケア』によれば、経口摂取が難しくなったときの医師の選択は11年に内視鏡的胃ろう造設術（以下PEG）80%、中心静脈栄養（以下TPN）10%、経鼻胃管10%から、17年にはPEG40%、TPN20数%、経鼻胃管20数%に変化します。胃ろうが半減し、TPNと経鼻胃管栄養が倍増しています。理由は明白です。患者、家族に評判の悪くなった胃ろう造設を、ここまでの労力と時間をかけて行う動機を医師が失ったからです。

厚生労働省のもくろみは、「食べられなくなって死ぬべき老人を、胃ろうで生かすことで余分にかかる医療費、社会保障費を削減すること」だと思っています。しかし、この浅はかなもくろみは破たんします。TPNで医療費が増大、胃ろう栄養で改善すべき人の誤嚥性肺炎と大腿骨頸部骨折が増加しました。そして要介護度が増し、社会保障費が増大する。なんと非倫理的、非論理的でしょうか。必要な医療を必要な患者に届けよ！ 胃ろうが必要な患者に胃ろうを届けよ！ と訴えたいです。

5. 胃ろうの意義と適応

5-1.PEGの意味

世界での最初のPEGは、1979年に米国で小児外科医ガードラーらにより6歳の嚥下障害を有する児に施行されています。それ以前は外科手術が行われていました。「小さい子どもに手術はかわいそうだ」と考えたのです。PEGの意味は低侵襲手術にあり、患者の負担軽減が目的だったのです。

日本でのPEGの始まりにかかわった鈴木裕先生の言葉です。「友人の病院で、経鼻胃管の自己抜去予防のために針金で鼻に止めていたのを見て『これは余りにもひどい。かわいそうだ。牛や馬ではないのだ』と思い、経鼻胃管を入れられている患者を救済したいとの思いでPEGにとりくんだ」。PEGの意味は経鼻胃管の苦痛からの解放、抑制からの解放だったのです。だから胃ろう造設から経鼻胃管に戻ってはなりません。

5-2.PEGは食べることを支える道具

胃ろうは食べることを障害を支える道具です。それを在宅医療にとりくむ長尾和宏医師がわかりやすく「PEGは歩行障害の人の松葉杖」と例えています。歩行不可の人に松葉杖はつくりません。同様に「食べられなくなったらPEG」という考え方をやめなければなりません。胃ろうは経口摂取の不足を補う道具です。そして胃ろうは栄養管理の道具です。栄養改善でめざす目的があるかが問われます。目的とは、①経口摂取を取り戻す、②病気の改善に役立てる、③ADLを改善する、④脱水予防、⑤薬の安定投与、⑥拘束をなくす——などです。

5-3.医学的な適応

生命予後が短いと予想される場合には胃ろう造設は行いません。終末期の延命のためにも行いません。またPEGに耐えられる全身状態も大事な条件です。著しい低栄養、重篤な感染症の合併、出血傾向のある場合も行いません。

5-4.嚥下機能

「摂食訓練が可能」がPEGの適応です。「お楽しみとしての摂食は可能」が、PEG選択可能な条件です。全く嚥下できない場合に胃ろう造設を行うと、肺炎を繰り返します。また痰で窒息や突然死をすることがあります。

5-5.低栄養

著しい低栄養の患者に胃ろう造設を行うと合併症を起こしやすく予後も不良です。肺炎の繰り返し、^{ろうこう}瘻孔の開大、皮膚トラブル、下痢、嘔吐、^{おうと}腹満、体重が増加しないこと、突然死など。手術をしたのに患者に不利益をもたらします。

5-6.対象患者

対象の明確な群は経口摂取が併用できる、一時的な栄養で経口摂取に移行できる群です。遷延性意識障害や意識障害が重篤な脳血管障害では年齢や発症期間、家族の受け入れを考慮していきます。老衰の患者、認知症末期の患者では個別に検討していきます。

5-7.認知症

認知症患者の最も適切な栄養経路は胃ろうです。抑制不要で短時間注入ができ、自己抜去の危険性が少ないからです。ただ認知症のステージがすすんだ場合には胃ろう造設が不利益をもたらすことが多くなります。認知症患者においては、原則的には胃ろう造設をするか看取りの二者選択となります。家族を交えて十分なカンファレンスが必要となります。

6. カンファレンスの意味～納得をつくり出す～

どんなときにカンファレンスを行うのか？ 意思決定・合意形成が難しいと思うとき、これは倫理の問題だと思うときです。例えば認知症、意識障害で意思決定ができないとき、身寄りがないとき、認知症の終末期で胃ろうを行うのか、悩むときなどです。

私たちは、問題が混乱しているときに「カンファレンスを」と言われると思うのです。多くの人数で意見を言い合っても、さらなる混乱を生むだけだろうと。

ところが実際にはしばしば逆のことが起こります。一人ひとりが発言するとより複雑な現実が見えてくるのです。カンファレンスの意味は、現実の複雑さを理解し、共有し、そのなかで、納得をつくり出すことなのです。それは100点の答えではない。70点、60点の納得が参加者のなかでつくり出されればそれでよいのです。もともと100点の答えが出せる問題であれば問題は起きないのです。

7. 倫理カンファレンスから～納得の地点へ～

ケース1：80歳男性、本人は胃ろう造設を希望せず、身寄りがなく高次脳機能障害あり、介護に抵抗する。「現在はひどく不快ではないという本人の感覚を維持するために胃ろう造設を選択する」が到達点となりました。

ケース2：58歳男性、心筋梗塞後の蘇生後脳症、意思疎通困難で身寄りなし。今後の医療はどこまでするか？助けられた命、身内なら生きてほしい、本人の苦痛をとってあげたい、が到達点。負担軽減のため胃ろう造設を行い、人工呼吸器からの離脱を図りました。

ケース3：75歳の男性、誤嚥性肺炎で入院。急速に認知症進行、身寄りなし、本人の意思確認ができない。到達点：胃ろうが本人に苦痛をもたらしている。胃ろう栄養の減量から皮下点滴にする。これはこの患者の「胃ろうの適応」を判断しているのではない。胃ろう栄養の限界を示していると気づきました。

8. まとめ

一昨年ACPの講演会で講師に質問しました。「胃ろうのよい適応なのに本人が拒否する。胃ろうをすすめられないのに家族は望む」、このような状況に引き裂かれることがある。どうしたものかと。講師の返事に目からうろこが落ちました。それは「結論はどちらでもいいと思います。結論ではなく、それを話しあうプロセスが大事です」。

85歳男性、脳梗塞。嚥下機能からは胃ろうのよい適応ではないが、家族と話し合って胃ろう造設。その後、肺炎を繰り返し、敗血症を合併。最期に看取りの選択となりました。コロナ禍での面会制限も緩和しました。プロセスを大事にしてかかりました。お見送りのとき、家族から「家族の時間を過ごすことができました。ありがとうございました」と言われました。

医療は患者と家族の苦しみや悲しみにかかわる仕事です。しかし、そのなかで「ありがとう」と言われるならば、闇の中にも光があると信じて働くことができます。

3月第2例会の報告

NST(栄養サポートチーム)と院内飢餓

～協立病院NSTは、今年で開設20年目を迎えました～

と き：3月18日（火） 19時～20時40分

ところ：ミュージックバー OMS

出席者：リアル ワイズ 11名・ゲスト 2名・配信員 2名・合計：15名

遠隔地 ワイズ 4名（岡山、神戸、米子、富山）・学Yシニア 1名

総合計 20名

講演者：板野 靖雄さん

岡山協立病院 内科 消化器内科・栄養サポートチーム委員長

鳥取大学YMCAシニア

日本基督団 岡山信愛教会役員

岡山ワイズメンズクラブ会員





今回は、あまり知られていないNSTの実態を板野ワイズからお聴きした。

あなたの親、兄弟姉妹、親戚が病院に入院した。あるいは施設に入所した。そしてあなたは面会に行った。するとその人がとても痩せていた。これで大丈夫なのか？あなたは心配になった。ではこの状況であなたはどうすればいいか？そのためにあなたが知っておくべきことは何か？そんな問いかけから講演は始まった。

板野さんが今、協立病院の医師として、この場に存在しているのか。そんなライフヒストリーを最初に丁寧に語ってくださった。原点は鳥取大学YMCAでの恩師であるヨードこと、齋藤皓彦さんや当時の友人達との聖書研究会にあった。友との語り合い、本との邂逅、人との出会い、加えて伴侶である昇子さんとの出会いが、その後の人生を決定づけた。そこで板野さんは、「神さま」と出会い、つながり、大きく変革されたのだ。

「君自身の言葉があって初めて他人と知り合うことができる。他人とコミュニケーションできる。新しい発見ができる。そしてまた新しい言葉が生まれる。それらによって君の知識は初めて意味のあるものになる」そのような珠玉の言葉との出会いを重ねながら、夫婦揃って「私たちはお返しできないほどの多くを受けた」と思い、「人から受けた恩はその人に返すな。それはやくざの論理。受けた恩は他の人に返しなさい」というヨード齋藤の言葉を胸に、その後の医師としての生き方が決定づけられた。

その後「栄養とその社会的意義」について教えていただき、現代の最先端の病院では、



「チームで患者さんを支援する形」が整いつつあることを学んだ。

「主なる神は言われた。『人が1人でいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。』（創世記2章18節）」「主なる神はそこで、人を深い眠りに落とされた。人が眠り込むと、あばら骨の一部を抜き取り、その痕を肉でふさがれた。そして人から抜き取ったあばら骨で女を創り上げられた。（2章22～23節）」これらの聖書の言葉が示しているのは、「人間は助け合う存在として創られている。互いに支え合うのが人間の初期設定」ということである。これこそが板野さんの説くチーム医療の原点であり、理想の姿でもある。

つい、数年前まで、当たり前のように病院内に飢え、やせ衰えた人がいた。これはある意味人災であった。なずなら大半の医者は「栄養に興味がなく知識もなかった」からである。だからこそ、未だにこの業界内に多くの誤解とミスリードが蔓延っている。その最たるものが、「胃瘻外悪説」であろう。今回参加者の多くが、目からウロコであった教えは、「胃瘻は食べることの障害を支える道具である」ということであった。つまり胃瘻は、「食べられなくなって、寝たきりになった人を生かす道具ではない。」ということなのだ。それどころか、PEG（胃瘻）は最も簡便、確実、安全、安価な代謝栄養法だったのである。

最後に現代日本が抱える闇はまだまだ深く大きいことを語られ、だからこそ今、協立ESTは、「一人の患者さんの栄養と経口摂取の回復を私たちの喜びと誇りに」という旗を掲げて日々診療に励んでおられることが語られました。大変深い学びの1時間でした。

YMCAニュース

①信愛ファミリーサポートステーション卒園式

と き：3月20日（休）10時～15時

ところ：岡山信愛教会

出席者：卒園生10名とその家族、担当リーダー、総主事、八谷牧師

内 容：はじめての集団生活を自然豊かな環境に恵まれた信愛ファミリーサポートステーションで過ごしたこどもたちの卒園式でした。五感を使って身近な自然に親しむことで豊かな感性が育っています。四季折々の自然は、感動がいっぱいで、お友だちと喜び驚き、共に心が動く経験を重ねてきました。その結果、こどもが自ら遊びを創り出すことを大切にしています。指導者はこどもの思いを尊重し、寄り添った保育を行い、愛されていることを実感できることを大切にしています。ご挨拶をしてくださったそれぞれのご家族が、異口同音に「みつかる、つながる、よくなっていく」物語を涙ながらに語ってくださった感動的な卒園式となりました。



②卒業リーダー感謝会「惜別と感謝と希望の礼拝」

と き：3月16日（日）16時～20時

ところ：岡山教会

出席者：卒園生14名、在校生、YMCA職員、ワイズメンズクラブメンバー

内 容：今年もこの日がやってきました。YMCAせとうちにとって、最も大切な日。それは卒業リーダーへの感謝礼拝の日です。それぞれの4年生のYMCAとの出会いの物語には、毎年感動します。青年という多感な時期に、YMCAと出会い、仲間や友とつながり、それぞれが大きく「変革される」。まさにYMCAのもつブランドバリューが、彼女彼らの人生に大きく寄与したことを心の底から感じる事ができる豊かな時間でした。今回正野さんのご都合が叶わなかったで、高本ワイズがYMCAせとうちの理事を代表して、心の温まるご挨拶をしてくださいました。また今回もワイズから記念品を贈らせていただきましたが、この記念品の選定にも高本さんが多大なる貢献をしてくださいました。石原会長から手渡していただいた記念品の「コインケース」は卒業生からの評判も上々で、みな大喜びでした。これから関東地区をはじめ、様々な場所へと散らされていきますが、YMCAで変革された人格を基に、きっと素晴らしき働きをしてくださるはず。長い間本当にありがとうございました。



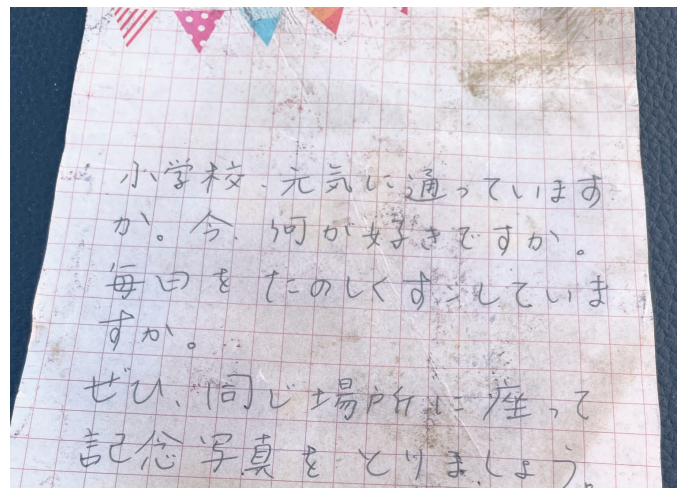
③信愛クラス10年ぶり同窓会とタイムカプセル掘出し

と き：3月30日（日）10時～15時

ところ：岡山信愛教会

出席者：卒園生たちとその家族、担当リーダー、八谷牧師

内 容：信愛ファミリーサポートステーションの10年前の卒園式の日、みんなでカプセルを埋めました。10年後にみんなで集まろうと約束を交わし、この度とうとうその10年目がやってきました。当日は少し寒かったですが、お庭の桜も芽吹き始める良い季節で、三々五々、みんながやってきました。なにせ10年ぶりですから、みな見違えるほど大きくなっていて、今はもう中学生。最初はぎこちなかったのですが、それでもあっという間に時を遡り、みなでわいわいがやがや。お楽しみのタイムカプセルも無事に掘り出すことができ、みなで思い出にひたることができました。次はまた、10年後、楽しみです。



のぶちゃんの「聖書のおはなし」

第6回 「初めて教会に行った時」

「最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。」

(コリントの信徒への手紙一15章3～5節)

こんにちは。日本基督教団の牧師として40年間教会の牧師をした後、昨年3月末で牧師を隠退し、4月からフリーランスの説教者になった「のぶちゃん」こと延藤好英です。

「のぶちゃん」というのは、2018年の西日本豪雨災害の時、特に西平島でボランティア活動をしていた時の呼び名です。また、iPhoneのクラブハウスというネットラジオの中で

「のぶちゃん先生」とも呼ばれています。今日は、わたしがクリスチャンになった時のこととお話ししたいと思います。

わたしが初めて教会に行ったのは高校三年生の時でした（小学生の時一度、友達と教会学校に行った記憶もかすかにあります）。公民館で英会話を教えてくださっていたアメリカ人のリカード先生ご夫妻が、「一度わたしたちの家に来ませんか」と誘ってくださったのがきっかけです。「アメリカ人の家の中ってどんなだろう」と興味津々で出かけたのですが、約束の時間は日曜日の午前10時30分で、招かれたのは宣教師館の隣りにあった日本基督教団和気教会でした。わたしの親世代の人たちが10人ほど集まっていました。教会の礼拝で大人たちが賛美歌を歌っているのに心惹かれました。けれども説教は、日本人の牧師が日本語で語っているのにちんぷんかんぷんでした。それでも、少人数の礼拝にわたしが欠席すれば更に寂しくなるとの思いもあり、日曜日ごとに教会に通い続けました。そしてなんとなく分かってきたことが二つありました。一つは、イエス・キリストという

方が、十字架にかかって死なれたということでした。そしてそれは、御自分の罪のためではなく、すべての人の罪の身代わりのためであったということでした。もしこれが本当ならわたしはこれを自分の生活の片隅に置いておくのではなく、自分の生活の中心に置かなければならないと思いました。

もう一つのことは、死後の世界です。わたしは次のように考えを巡らせました。死後の世界があると信じて生きて、死んでみたら死後の世界はなかったという場合、それはそれで終わっているのでは何の悔いもないだろう。しかし、死後の世界がないと信じて生きて、死んでみたらやっぱり死後の世界があったという場合、わたしは自分の生き方を悔やむだろうと思いました。更に、自らの命を差し出すほどの愛で愛されていたのに、それを信じないで生きて、死んだ後にそれが本当だったと分かった場合、やはり自分は後悔するだろうと思いました。

そして、イエス・キリストの愛を自分の人生の中心に置くとは、イエスさまがわたしの罪のために死なれたこと、復活されて今も後も生きておられることを信じますと告白して、洗礼を受けることだと思いました。そんなわけで、わたしは高校を卒業し、浪人している年の6月29日に日本基督教団和気教会で風間直次郎牧師から洗礼を受けることになったのでした。リカード宣教師とはその後も交流が続き、宣教師館にも何度かお邪魔しました。また、わたしの結婚式の司式もしていただき、先生が隠退されてコロラド州に帰られた後は、そのお家にもうかがわせていただきました。



のぶちゃんの「聖書のおはなしⅡ」

「あなたがたに平和があるように」

「その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、『あなたがたに平和があるように』と言われた。」（ヨハネの福音書 20章19節）

今年は4月20日（日）がイースターです。教会の暦は、イエス・キリストの誕生を祝うクリスマス、聖霊が与えられ教会が誕生したことを祝うペンテコステ、そして十字架にかけられて死んだイエス・キリストが死からよみがえったことを祝うイースターの3つが骨格をなしています。「キリスト教が、死んだ人がよみがえるということさえ言わなければ理解できるんじゃないかなあ」と知り合いのお医者さんに言われたことがあります。人の理解や経験を超えた出来事なのです。そして、キリストの復活がなければキリスト教の信仰もないのです。

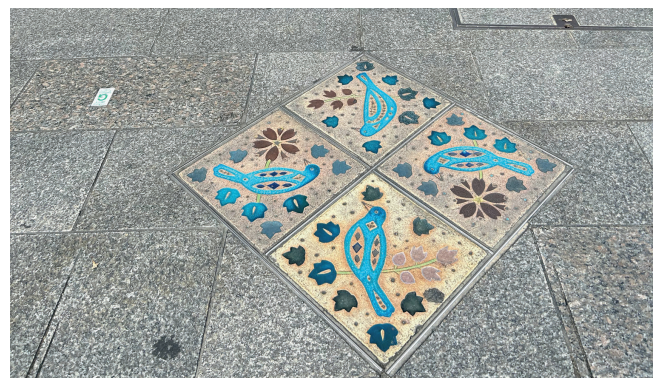
今日の場面で「弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた」とあります。これは、イエスさまが捕まえられ、十字架で殺された三日後の夕方のことでした。弟子たちは、自分たちもユダヤ人たちに捕らえられるのではないかと恐れていました。そこに復活されたイエスさまが姿を現されたのです。

弟子たちは驚きました。恐怖さえ感じたと思います。それは、死んだはずの人が目の前に現れたという、今までの経験からは考えられない出来事を目の当たりにしている驚き。そして、イエスさまが捕らえられた時、自分たちはイエスさまを見捨てたという悔い。そのことを責められるかもしれないという不安。そんなものが入り混じった驚きであり、恐怖です。けれどもイエスさまが弟子たちに語り掛けられた第一声は、弟子たちには思いがけない内容でした。「あなたがたに平和が

あるように」。ここには、「わたしはあなたの方のことを責めていない」という赦しがあります。そして、「あなた方も自分のことを責めなくていい」という癒しがあります。また、「これから改めて共に生きていこう」という招きがあります。

キリストの平和。イエスさまはこの平和について生前弟子たちに語っておられました。「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな」（ヨハネによる福音書 14：27）。この平和は、戦争が無くなって初めて訪れる平和ではありません。すべての問題が解決して初めて手に入れられる平和ではありません。むしろこの平和に慰められ、力づけられて、戦争のない世界の実現に取り組み、様々な問題に希望を持って取り組む力です。キリストが与えてくださる平和、それは、どんな時も「イエス・キリストが共にいてくださる」という平和です。世の中がどうなろうと、わたしたちから奪い去られることのない平和です。

イエス・キリストの十字架と復活によって、すべての人にこの平和は配られているのです。神さまは、その平和をあなたが受け取れることを願っておられます。そして、この問題だらけの世界で、この平和を胸に、勇気をもって生きていくことへと導いておられます。「これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」（ヨハネによる福音書 16章33節）。



クラファンで応援した書籍が完成、 パパゲーノさんから届きました。

本書は2024年10月から実施したクラウドファンディングにて104名より604,500円の支援を受けて制作されました。特に次の皆さまについては、本書籍のスポンサーとしてご支援いただき、様々な面でご協力いただきました。

【本書籍の公式スポンサーとしてご支援いただいた方】

- 村下 千尋さん
- YMCAせとうち&岡山ワイズメンズクラブさん
- 熊本 大樹さん
- 株式会社スタートラインさん
- 秋葉原内科saveクリニックさん

YMCAせとうちのDXを支援していただいたご縁で、昨年佐藤さんと太田で、パパゲーノさんを訪問見学させていただき、大変感銘を受けました。いずれは岡山でもこんなことに取り組んでみたいと思っていた時に、書籍出版のお話があり、クラウドファンディングでご支援させていただいたところ、この度その書籍をお届けいただきました。ご一読をお奨めします。

誰もが社会資源としてAIを使いこなす未来

障害福祉とAIの融合が、個別支援のあり方を根本から変える！本書では、最先端の生成AIを活用した障害者支援の実践事例を豊富に紹介。ChatGPTやAIツールを活用することで、障害のある方が自分らしく働き、社会とつながる新たな可能性が開かれています。

「AIは効率化のツールではなく、社会資源である」この視点のもと、就労継続支援B型

「パパゲーノ Work & Recovery」のリアルな事例を交えながら、福祉の現場でAIがどのように活かされているのかを徹底解説。

- AIで「本当の意味での個別支援」はどう実現できるのか？
- 「ソーシャルワーク4.0」の時代、支援者の役割はどう変わる？
- 障害のある方がAIを活用することで広がるキャリアの可能性とは？

○ITが苦手でも大丈夫！専門知識がなくてもすぐに実践できる方法をわかりやすく解説

○AIを活用した新しい障害者支援の形を一緒に考えてみませんか？

はじめに：本当の意味での個別支援の時代

第1章：生成AI で変わる障害福祉の常識

第2章：そもそもAIとは？

第3章：対話から考える生成AIの可能性

第4章：生成AI による支援現場のDX 実践

第5章：ソーシャルワーク4.0

第6章：障害福祉業界のDX・AI 活用の現状

おわりに：リカバリーの社会実装に向けて

「生きててよかった」と
誰もが実感できる社会へ。
当事者／支援者双方の活用事例を多数掲載



岡山ワイズメンズクラブ 4月第2例会



4月15日(火)

19:00~20:30

会場：ミュージックバーOMS・オンライン配信

参加 Zoom ミーティング

<https://x.gd/XPhuT>

ID：812 9740 7884・pw：8UKxmq

**緊急配信
決定**

ワイズメンズクラブ&YMCA合同企画

チャレンジする会社、オーニック。
～楽しく住み良い社会の実現に向けて

～障がい者雇用率7割は、目的を達成するための手段です～

日本企業を取り巻く環境はいま、大きく変化しています。そんな変化の時代を乗り越えるカギの一つが、ダイバーシティ経営だと感じています。性別や国籍、身体的能力にこだわらず多様な人が働く。考え方や能力、生き立ちを個性として認め、それぞれの働き方ができる環境をつくる。それは働く人の不便を改善するだけでなく事業全体の改善にもつながるからです。

オーニックは障がいを持つ人を雇用するために創業した金型部品メーカー。身体的、知的、精神的な様々な障がいを持つ人が働いています。漢字を読めない知的障がいの人のためにマニュアルの全ての漢字にルビを振る。下半身で温度を感じることが苦手な車イスの人のために作業現場の室温を一定に保つ。それはその人たちのためにしたことでした。けれど、ルビを振ったことで他の人もミスが減り、恒温にしたことで金型部品の品質が良くなった。事業全体の改善にもつながったのです。

ダイバーシティという障がい者や外国人を雇用することと思われがちですが、私はそうは思いません。成功体験や固定概念の無い新入社員の意見を取り入れる。保育園に子供を送り迎えする社員が参加できる時間に会議を開く。工具は女性が持てる重さにする。

そうした「多様」な人が活躍できる職場をつくる。そして、「仕事の成果」そのものを尺度として評価する。それがダイバーシティではないでしょうか。私たちオーニックは、そのように考えています。



株式会社 オーニック 代表取締役社長
公益財団法人 YMCAせとうち 理事
日本イエスキリスト教団 岡南教会会員
岡山ワイズメンズクラブ会員

難波 健さん

1976年生まれ、北海道札幌市出身。99年工学院大学工学部機械工学科を卒業し、オーニックに入社。2013年、社長に就任。経営理念であり創業者（叔父）の意思を受け継ぎ、障がい者が働きやすい職場づくりに日々取り組む。趣味は映画鑑賞、読書。尊敬する人は父・難波功一氏。近ごろのマイブームは靴磨きとのこと。

お問い合わせは、こちら どなたでも参加可能です。

TEL 086-223-1509

URL <https://setohime-ymca.org>



みつかる。
つながる。
よくなっていく。

フォーラム 超高齢化社会と私たち 終わりの日まで、生き生きと。

2025年5月11日(日)13:30～16:00

岡山信愛教会：岡山市中区御成町12-16

パネラリスト紹介

- 重信 真人 大阪YMCA
- 藤井 恵子 ケアマネージャー
- 板野 靖雄 岡山協立病院 内科医
- 阪本 明美 坂出教会役員

コーディネーター

- 太田 直宏 YMCA せとうち 代表理事



- 13時30分 開会祈祷、挨拶
- 45分 パネラリスト発題
- 14時45分 休憩
- 15時 パネルディスカッション
- 15時30分 全体討論会
- 16時 開会祈祷、挨拶

主催：岡山信愛教会
共催：YMCAせとうち
後援：岡山ワイズメンズクラブ





ワイズメンズクラブ国際協会
第28回
西日本区大会

Y'S SLOGANS

岡山クラブ 会長 石原康正

○YMCAと共に楽しくワイズ活動！ Let's enjoy Y's Lives with YMCA.

瀬戸山陰部 部長 長壽和子（岡山クラブ）

○チーム瀬戸山陰 どうなるか？ではなく、どうするかを考えよう。

～さあ、動こう！ 自働・共働～

Let us not just worry about the future, but think about what we should do.

～Let's take action together with our friends in the Seto-San'in region!

西日本区 理事 鵜丹谷剛（神戸クラブ）

○つなげよう地域と世界、YMCAと共に Connecting Local to the World with YMCA

○楽しもうフェロウシップをポジティブに Enjoy positively our fellowship

アジア太平洋地域 会長 Joan Wong

○大きなインパクトを起こそう

Make a Great Impact

○大胆に、信念をもって奉仕しよう

Be Bold and Serve by Faith

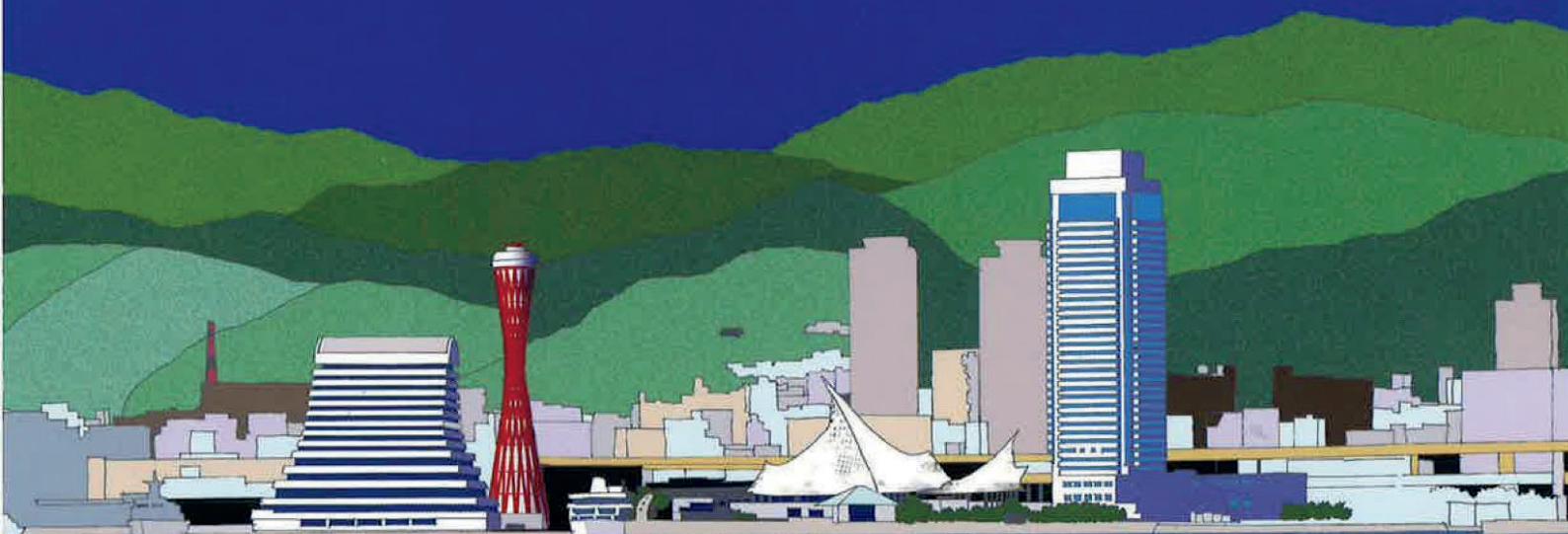
国際協会 会長 Charming Shen

○太陽の輝きと笑顔

Sunshine and Smile

○簡潔さは美

Simple is Beauty



2025

6.14 sat.

SMILE. IMPACT. CONNECT.

■ 会場 ANA クラウンプラザホテル神戸

ホストクラブ：神戸クラブ・西宮クラブ・神戸西クラブ・神戸ポートクラブ・宝塚クラブ・神戸学園都市クラブ・芦屋クラブ